

令和 6 年 10 月 1 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K10805

研究課題名(和文) 看護基礎教育から臨床へ救急看護師の自律性を育む救急看護教育プログラムの構築

研究課題名(英文) Establishing a nursing education programme that developed emergency nurses' autonomy from basic nursing education to clinical practice.

研究代表者

大江 理英 (oe, rie)

兵庫県立大学・看護学部・准教授

研究者番号：20802416

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：救急看護師の自律性を高める教育に関する質的研究により看護を実感させるリフレクションが必要であることが明らかとなったことから、リフレクションを基盤に救急看護師の自律性を高める現任教育プログラムを構築した。対象は20歳代の救急看護経験3～8年目の救急看護師13名であった。介入後の自律性尺度得点は介入前より低下した。自由記載では、ディスカッションにより自らの自律性を考える機会となったことが明らかになった。救急看護師の自律性を育む看護基礎教育に関する質的研究では、救急看護の実際の理解と迅速な臨床判断を育成できる看護基礎教育が重要であることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、救急患者の救命や擁護に影響すると考えられる救急看護師の自律性を高める支援を明らかにできた。看護基礎教育から継続教育に至る救急看護師を対象とした自律性を高める支援が広がることは、救急看護師の自律性を高めることから救急看護実践の質の向上に寄与すると考えられる。

研究成果の概要(英文)：Qualitative research on education to enhance the autonomy of emergency nurses revealed that reflection is essential for nurses to realize their nursing skills. We developed a reflection-based education program for emergency nurses to enhance their autonomy. The subjects were 13 emergency nurses in their 20s with 3 to 8 years of emergency nursing experience. Scores on the autonomy scale after the intervention were lower than before the intervention. Free-text comments indicated that the discussion provided an opportunity to reflect on their own autonomy. A qualitative study of undergraduate nursing education that develops autonomy in emergency nurses revealed the importance of undergraduate nursing education that facilitates understanding of actual emergency nursing practice and promotes prompt clinical judgment.

研究分野：クリティカルケア看護学

キーワード：救急看護 看護師の自律性 教育プログラム

## 1 . 研究開始当初の背景

これまでの救急看護実践は、突然の事故や疾病により生命危機に陥った救急患者の救命を第一義的責任として急性疾患や外傷の病態の理解と救急看護技術の提供に主眼を置いてきた。しかし、超高齢社会の到来は救急領域における疾病構造を外傷から疾患に変化させ、急増する高齢救急患者や様々な背景を持つ救急患者のニーズに応えていくために救急看護師としては、救急処置だけではなく、生命にかかわる治療選択に関する意思決定支援や早期リハビリテーションならびに在宅移行を含めたトランジションを支えるチーム医療の推進などについても自ら考え、行動する自律性が求められるようになった。

看護師の自律性は「高度な専門技術に裏付けられた自主的・主体的な判断と適切な看護実践という、看護活動における専門的な能力の発揮<sup>1)</sup>」とされており、患者の合併症による死亡率<sup>2)</sup>やケアリング行動<sup>3)</sup>や看護実践能力<sup>4)</sup>に影響することが明らかになっている。したがって、本研究では救急看護師の自律性を高める支援を検討し、救命や看護実践能力を高めることにつながる救急看護師への支援や教育に関する基礎資料を得ることができるのではないかと考えた。

先行研究として大江ら<sup>5)</sup>は最重症の救急患者を収容する救命救急センターの看護師(以下、救急看護師とする)の自律性の構成要素として【救急患者と救急の場への判断に基づく救命のための行動】、【救急患者・家族の人格を尊重するための行動】、【救急患者と家族のニーズを引き出し充足するための行動】、【救急看護師と救急患者・家族との協働を促進する行動】、【救命のために医療チームで協働すること】、【看護ケアの質を維持・向上させるための行動】を明らかにしてきた。これらの救急看護師の自律性の構成要素を基盤に信頼性や妥当性を検証して開発した救急看護師の自律性尺度<sup>6)</sup>は「患者・家族を擁護する行動」、「治療を推進する行動」、「回復に向けた患者・家族への支援」の3因子33項目で構成された。尺度項目は生命危機にある患者及びその家族への擁護、救急医療の促進、患者回復のための支援について救急看護師が自ら考え行動する内容となった。また、救急看護師の自律性の高さが職務満足と相関があることが明らかにされたことから、救急看護師の自律性は、患者の生命と尊厳の擁護ならびに患者の回復の支援とともに職務満足に関連することから、高める支援を開発する必要があると考えられた。

看護師の自律性を高めるための支援については、老年看護に関する教育プログラム<sup>7)</sup>が職務満足尺度の下位尺度である自律性を改善させたことが明らかになっているが、救急看護を含む看護師の自律性を育成することを主眼とした教育プログラムはこれまでのところ見当たらない。看護基礎教育においても救急看護学の教科書は「救急状態にある患者の理解」が全記述量の8割を占め、うち9割以上が身体的側面に関する内容<sup>8)</sup>で救急患者への身体的な病態や症状への看護実践が中心となっていた。救急看護領域の現任教育でも「基本的看護技術」と「救急看護の知識と技術」が重要視され、「自律した看護師」の実施指導頻度は最も低い<sup>9)</sup>。以上のことから、看護基礎教育や現任教育において救急看護師の自律性を育成する支援や教育は重要視されておらず、救急看護師の自律性を育成する支援内容も検討されていない。

したがって最重症の救急患者を収容する救命救急センターの看護師(以下、救急看護師とする)の自律性を高めることは、生命危機にある患者の救命や擁護に貢献すると考えられる。しかしながら、現在のところ救急看護師の自律性を育む支援や教育プログラムの開発には至っていない。

## 2 . 研究の目的

本研究は、看護基礎教育から臨床へ救急看護師の自律性を育む救急看護教育プログラムの構築を目的とする。救急看護に精通する急性・重症患者看護専門看護師(以下、CNSとする)の教育や相談機能を生かし、次の学びにつなげる深い学習を促進し方法の熟達に導くアクティブ・ラーニングにより、救急看護師の自律性を高める汎用的な看護基礎教育から臨床につづく実践的な救急看護教育プログラムを検討する。

## 3 . 研究の方法

- 1) 救急看護の専門家が認識する救急看護師の自律性を高める教育内容を抽出し、現任教育用プログラム原案を作成する。
- 2) 救急看護師に現任教育用プログラム原案を実施、評価する。得られた結果よりプログラム内容を修正し、現任教育用プログラムを構築する。
- 3) 看護基礎教育や救急看護の専門家が認識する看護基礎教育である学士教育で救急看護の自律性を高める教育内容を抽出し、看護基礎教育用プログラムを構築する。

## 4 . 研究成果

### 1) 現任教育用プログラム原案の作成

救急看護師の自律性を育成する支援内容を明らかにすることを目的に救急看護師と救急看護経験を有する大学教員計6名へ行ったフォーカスグループインタビュー内容から救急看護師の自律性を育成する支援内容を質的記述的に分析した。

結果として救急看護師の自律性を育成する支援内容は【基盤となる知識と技術の習得を促す】【学びにつながるつながりを作る】【新たな視点を得るための振り返り】などの8カテゴリ、促進要因は【リフレクションへの理解があること】【ファシリテートできる人材】の2カテゴリ、

阻害要因は【日常の看護に思考が見えない】【看護師間の自律性の認識が違う】【業務中心の教育方針】の3カテゴリが抽出された。

結果から、救急看護師の自律性を育成する支援では、やりがいや喜びを感じた経験に関するリフレクションが自ら提供した看護の意味や価値に気付かせ、先輩看護師としての自覚や自信を深めて前向きにさせるとともに自分自身の行動が他のスタッフの変化に繋がったことを自覚させることから重要であることが明らかになった。救急看護師の自律性を育成する教育システムには、気づきからの悔しさ、喜びなどの感情が生じた看護実践を複数回にわたり省察し、語りを促す内容を入れ込むべきで、すなわち、自己の有能性や救急看護の意味や価値を認識できるように、看護実践を意味づけし、看護的観点に日常業務や救命処置を再構成し、新たな知識や視点を獲得できるリフレクションに基づく支援が重要であることが考えられた。さらに、救急看護の独自性を熟知し、実践の内容や感情を自由に語れる安全な対話の場を設定し、リフレクションをファシリテートできる救急看護師の人材活用が望まれる。また、他の阻害要因のカテゴリ【日常の看護に思考が見えない】や【業務中心の教育方針】があった。教育目標は部署の組織風土に大きく影響するため、目前の業務を優先するのではなく、実践し積み重ねた救急看護についてリフレクションを行い、意味付けすることができる教育環境を組織的に整えることが望まれる。救急看護師の自律性に基づく臨床判断や看護実践が救急医療チームにより称賛される組織文化を創造できるよう看護教育や看護管理を検討すべきと考えられた。これらの結果から研究者間で検討し、リフレクションを基盤とした現任教育用プログラムを構築した。

## 2) 現任教育用プログラムの構築

救急看護師に対する現任教育用プログラム原案の実施：

準実験デザイン研究として研究協力に同意の得られた西日本の救命救急センターに勤務する20歳代の救急看護経験3～8年目の救急看護師13名に対してリフレクションを活用した救急看護師の自律性を高める支援プログラムを実施した。介入はすべて急性・重症患者看護専門看護師(Certified Nurse Specialist in Critical Care Nursing; 以下, CCNS)が行った。全3回の介入を行った。介入前後に「救急看護師の自律性尺度」に回答した4名については介入後の自律性尺度得点は介入前より低かった。本プログラムに関する自由記載では、ディスカッションにより救急患者と関わることへの意識づけや自律性について考える機会となったことが明らかになった。今後はさらにプログラム内容を検討するとともに対象者を増やし、検証する必要がある。

## 3) 看護基礎教育用プログラムの構築

学士教育における救急看護の自律性を高める教育内容の抽出：

質的記述的研究にて、基礎看護学や急性期看護学を教授する大学教員やCCNSならびに救急看護領域の勤務経験を有する看護師12名を対象者にフォーカスグループインタビューを全3回行った。インタビュー内容から学士教育における救急看護の自律性を高める教育内容を抽出し質的記述的に分析した。得られた結果から、救急疾患の病態や治療ならびに看護に関する講義だけではなく、救急看護の特性である迅速な臨床判断の必要性を理解したり、救急看護が行われる状況の実際を伝える教育内容が重要であることが明らかとなった。これらを教授する方法としてアクティブ・ラーニングを取り入れるなど救急看護に興味を持てるような授業形式をとる必要性も明らかになった。あわせて、学士教育では看護師としての自律性を基盤に救急看護の自律性を高める必要があり、学士教育として系統的な自律性を高めることができる支援方法を検討する必要があることも考えられた。

## 引用文献

- 1) 菊池昭江, 原田唯司: 看護専門職における自律性に関する研究 基本的属性・内的特性との関連. 看護研究 1997; 30(4): 285-297.
- 2) Rao, A. D., Kumar, A., et al: Better Nurse Autonomy Decreases the Odds of 30-Day Mortality and Failure to Rescue. Journal of nursing scholarship: an official publication of Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing 2017; 49(1): 73-79
- 3) 重久加代子: がん患者のケアを担う看護師のケアリング行動の実践に影響する要因の分析. 国際医療福祉大学学会誌 2012; 17(1): 19-29.
- 4) 辻ちえ, 小笠原知枝, 竹田千佐子, 他: 中堅看護師の看護実践能力の発達過程におけるプラトー現象とその要因. 日本看護研究学会雑誌 2007; 30(5): 31-38
- 5) 大江理英, 杉本吉恵, 簗持知恵子, 他: 救命救急センターに勤務する看護師の自律性に関する質的検討. 大阪府立大学看護学雑誌 2017; 23(1): 11-20.
- 6) 大江 理英, 杉本 吉恵: 救命救急センターに勤務する看護師の自律性尺度の開発. 日本クリティカルケア看護学会誌 2023; 19: 207-218.
- 7) Lange, J., Wallace, M., Gerard, S., et al: Effect of an Acute Care Geriatric Educational Program on Fall Rates and Nurse Work Satisfaction. The Journal of Continuing Education in Nursing 2009; 40(8): 371-379.
- 8) 磯崎富美子: 看護基礎教育課程における救急看護に関する教育内容の現況: 主要教科書の内容の分析を通して. 日本赤十字秋田短期大学紀要 1998; 2: 69-73.
- 9) 森田孝子, 滝沢美智子, 松本剛, 他: 救急医療に従事する看護師の現任教育モデル作成のための実態比較調査. 日本救急看護学会雑誌 2003; 4(2): 53-64.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大江理英 豊島美樹
2. 発表標題 救急看護の専門家が認識する救急看護師の自律性を高める支援
3. 学会等名 第51回日本集中治療医学会学術集会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	杉本 吉恵 (Sugimoto Yoshie) (40280185)	周南公立大学・人間健康科学部 看護学科・教授  (24405)	
研究分担者	旗持 知恵子 (Hatamochi Chieko) (70279917)	大阪公立大学・看護学研究科・教授  (24403)	
研究分担者	田中 京子 (Tanaka Kyoko) (90207085)	大阪公立大学・看護学研究科・教授  (24403)	
研究分担者	北村 愛子 (Kitamura Aiko) (90772252)	大阪公立大学・看護学研究科・教授  (24403)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	林田 裕美 (Hayashida Yumi) (10335929)	大阪公立大学・看護学研究科・准教授  (24403)	
研究分担者	徳岡 良恵 (Tokuoka Yoshie) (30611412)	大阪公立大学・看護学研究科・講師  (24403)	
研究分担者	井上 奈々 (Inoue Nana) (80611417)	大阪公立大学・看護学研究科・講師  (24403)	
研究分担者	豊島 美樹 (Toyoshima Miki) (70838812)	大阪公立大学大学院・看護学研究科博士後期課程・学生  (84427)	
研究分担者	谷田 恵子 (Tanida Keiko) (60405371)	兵庫県立大学・看護学部・准教授  (24506)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	八木 彩子 (Yagi Ayako)	大阪急性期総合医療センター・看護部・看護師	
研究協力者	小松 良平 (Komatsu Ryohei)	松下記念病院・看護部・看護師	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	國松 敬介  (Kunimatsu Keisuke)	松下記念病院・看護部・看護師	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関